

# 城を歩く会 4月定例会\*一泊見学会「バスで信越の城をめぐる」

ご案内資料①平成24-4-4、5

山岸弘明

主要行程 (おおよその時間です=進行にご協力ください)

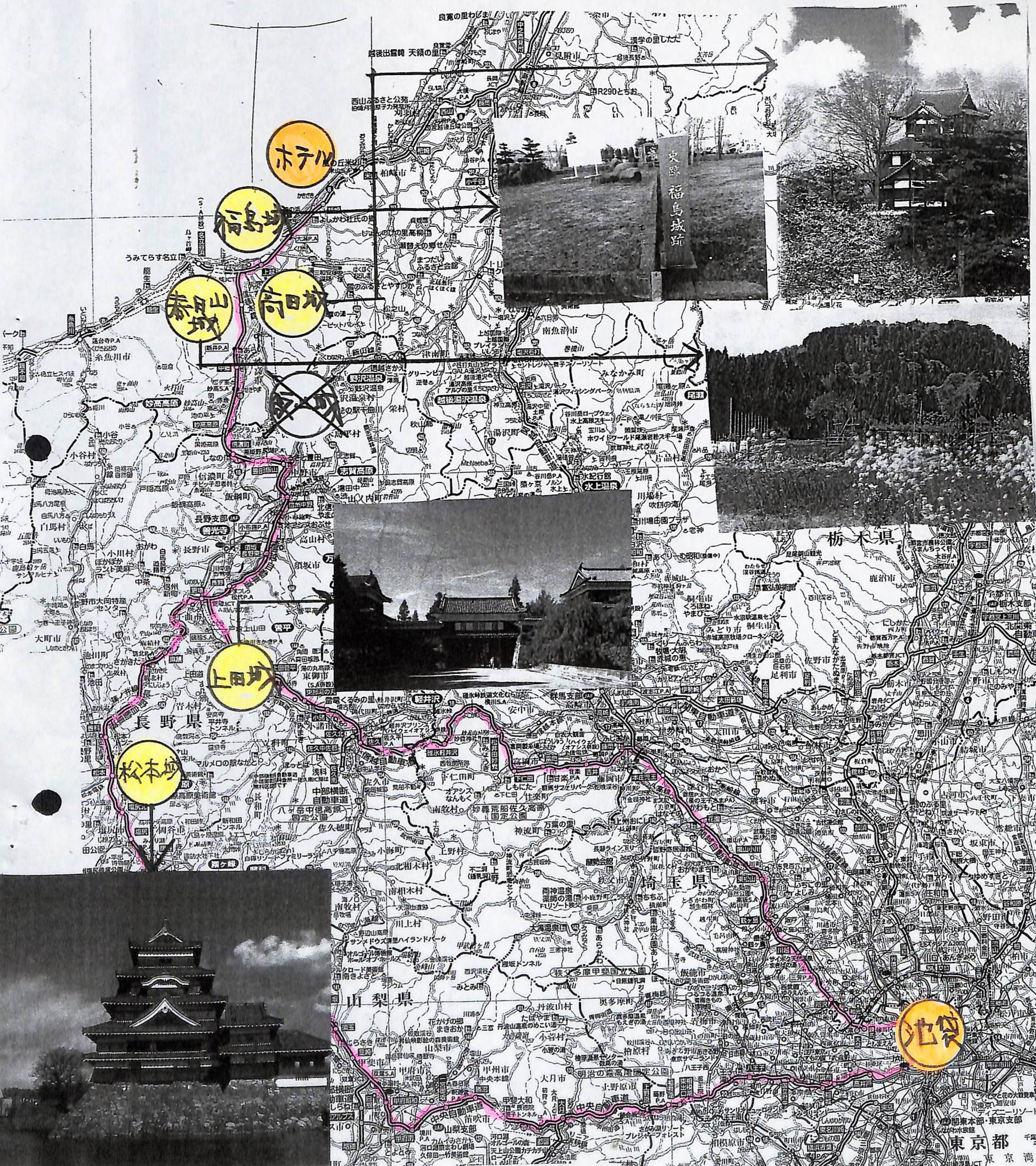
第1日 (4月4日)

- 8時00分 JR池袋駅西口出発、関越自動車道、信越自動車道 (途中トイレタイム)
- 11時00分 上田城 (見学75分)、移動 (信越自動車道=車中昼食)
- 13時45分 高田城 (見学75分)
- 15時45分 五智居多ヶ浜、国分寺 (見学30分)
- 17時00分 ホテル着

第2日 (4月5日)

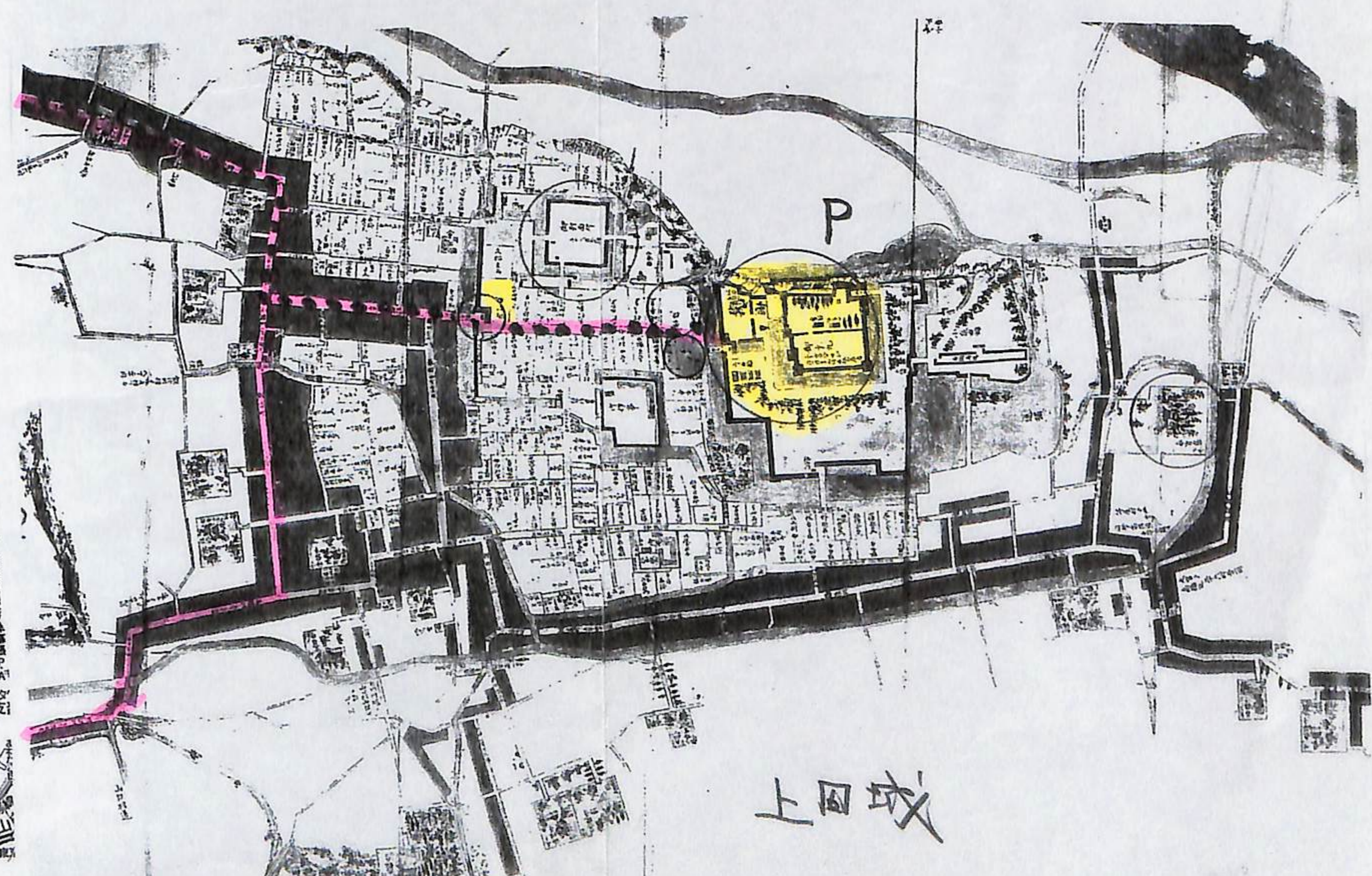
- 8時10分 ホテル出発
- 8時30分 越後福島城 (見学30分)、安寿と厨子王供養塔
- 9時30分 春日山城 (見学100分)
- 11時30分 監物堀、ものがたり館 (見学、昼食70分)
- 13時00分 林泉寺 (見学30分)、移動 (信越自動車道、長野自動車道)
- 14時20分 松本城 (見学75分)、(中央自動車道)
- 19時30分 池袋または新宿解散

注意=当初予定の飯山城は積雪のため松本城に変更しました。また、春日山城も残雪と雪解け悪路が予想されることから一部コースを縮小、変更することがあります



## 鶴の浜ニューホテル

〒949-3101 新潟県上越市大潟区雁子浜304  
TEL.025-534-2622 (代)



お断わり  
信越地方豪雪にともなうコース変更のため、  
本資料の掲載順が当日のご案内コースと一致しない箇所があります

# 徳川家康、秀忠を2度破った真田昌幸の「上田城」を歩く

## 1) 破却された真田の上田城を仙石氏が再構築＝上田城の概要

- ①戦国後期、天正11年(1583)真田昌幸築城、天嶮の地形を巧みに利用した難攻不落の名城。真田氏が徳川家康、秀忠2度にわたる合戦に勝利した歴史的名城。関が原の合戦後、いったん破却されたが元和8年に仙石氏が復興。江戸後期松平5万3千石居城。
- ②北国街道に沿った変形梯郭式平城。千曲川を背負って本丸、2の丸、前面に3の丸を配している。
- ③主郭部は上田城址公園として整備、水濠、空堀、土塁など地形は現存。本丸石垣上には正面櫓門、続き堀、南北西3櫓を復元、往時を偲ばせる。
- ④真田六連銭、仙石、松平氏と続いた「歴史の町」がいまも脈々と波打っている。

## 2) 車窓から大手門跡を望む

- ①かつての北国街道を進み、中央2丁目交差点で右折、直後にクランク。
- ②車窓右、小さな大手門公園が「大手門跡」、かつて前面に水濠を巡らせ櫓門と升形を置いた。一部を小公園として保存、図面入りの市教育委員会説明看板などが旧跡を示す。ここからが城内3の丸、大手通りに沿って重臣邸が立ち並んだ。

## 3) 城跡公園前で降車

- ①城址公園の正面「2の丸橋前交差点」で降車。
- ②手前左、上田第2中学校は藩校＝文武学校<明倫堂>跡。

## 4) 空堀を歩く＝2の丸堀と2の丸橋

- ①大きな空堀が3の丸と2の丸を分ける。
- ②かつて水濠。城側に土塁を積む。箱堀。堀巾27m、深さ4m、水深2m。2の丸、3の丸濠の水は城下を流れる矢出沢川から引いた。
- ③空堀の遊歩道に下り50mほど歩いて2の丸側に上る。一時期遊歩道上田温電の電車道となった。
- ④「時の鐘」を見上げる。城下から移築。
- ⑤橋と枅形＝中央に土橋。石垣で固めた内枅形食違門。
- ⑥2の丸は第1次「上田戦争」の最激戦地。徳川軍は奇襲を受けて敗走、多くの犠牲者を出した。

## 5) 水濠と空堀を並べる＝本丸堀

- ①本丸濠＝決戦に備えた最後の濠。濠巾27m、虎口櫓台高石垣積み、ほかは土塁、水叩き(水面までの石垣)。水源は天然の湧水だが、幕末の大地震で枯渇、いま観光用に地下水汲上げ？虎口周辺は櫓台高石垣だが、ほかは土塁。
- ②空堀＝堀巾32m、高さ6m。尼ヶ淵側の30mほどが空堀。理由は簡単、水を溜められない。



## 6) 高石垣と櫓門がそびえる＝本丸正門、東虎口櫓門

- ①櫓台石垣＝虎口周辺の櫓台を壮大な高石垣で構築。石材は太郎山の緑色凝灰岩。打込ハギ
- ②真田石＝北櫓石垣に組み込まれた巨石。城内最大で長径3m。上田城北にそびえる太郎山から切り出された。真田氏が松代転封のときこの石を運ぼうとしたがビクともしなかったという。
- ③東虎口櫓門＝虎口は城門を意味する。2の丸から本丸への正門。2階造り、入母屋屋根本瓦葺きシャチ、櫓門。階下に御門を開き、階上は武器庫、戦時は正面からの敵に狭間や格子から弓矢を射掛ける。平成6年史実に基づき正確に復元。
- ④南櫓＝2重櫓。入母屋屋根本瓦葺きシャチ付き、初重、2重とも武者窓のみ、飾破風、高覧なし、一部白漆喰、下見板黒塗り。内部はそれぞれ1室、戦時用武器庫で弓矢、鉄砲弾丸などをおいたほかは何もないガラテ。明治6年の廃城でいったん上田遊郭に売却、移築され、客と遊女の嬌声が行交ったこともあったが、戦時下の昭和19年、新たに結成された上田城跡保存会が買い戻して24年に移築復元した。貴重な現存建造物。長野県宝。
- ⑤北櫓＝南櫓と同じ構造。南櫓と同じ移築復元、現存建造物。長野県宝。

## 7) 上田城櫓門を自由見学 (団体入場15分)

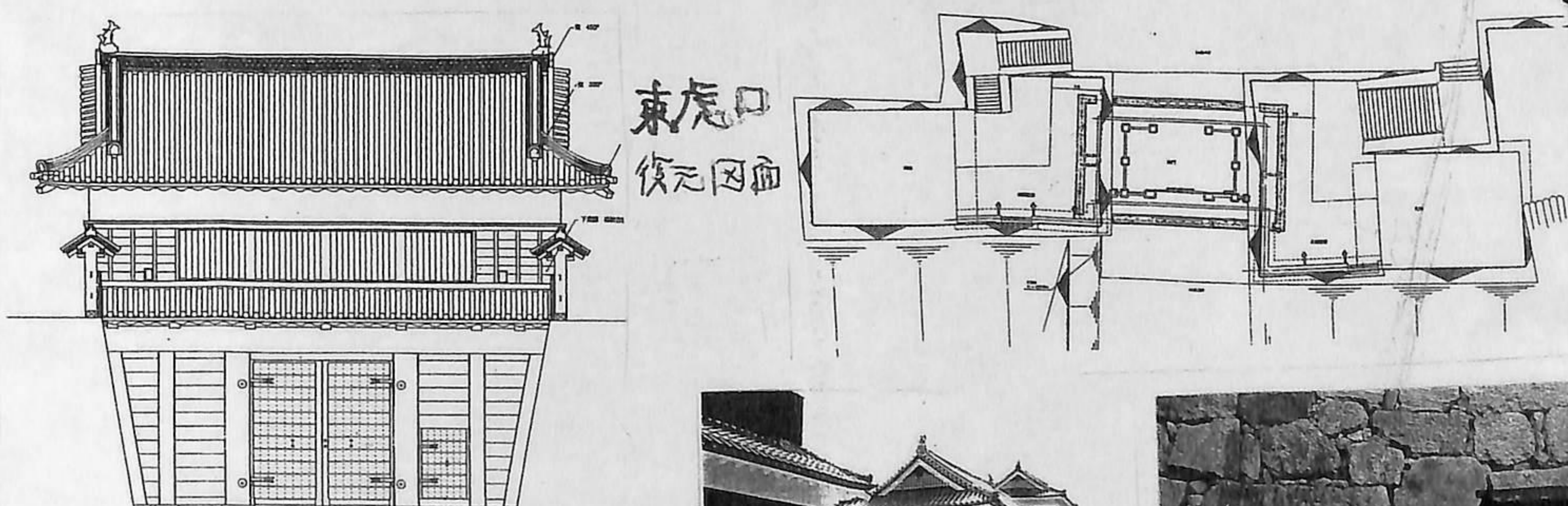
- ①南櫓、櫓門、北櫓を資料館として公開、自由見学。櫓の内部、屋根組、射撃用の弓狭間、鉄砲狭間、突上窓の武者窓格子、展示物などに注目
- ②南櫓、北櫓、西櫓の主要サイズ(3櫓とも同じ)＝初重桁行8×梁行10m、2重7×9m 軒高初重4、2重8m、軒高11m。建坪初重80、2重58㎡

## 8) 尼ヶ淵大断崖で立地を確認

- ①本丸千曲川側の絶壁。高さ15m。当時ここに千曲川の分流があり深い淵を造っていた。難攻不落の名は千曲川側断崖、天然の要害によるところが大きい。
- ②鉢巻石垣＝石積みは野面積み。度々の補修で石材の調達ができなかったらしく千曲川の川石、溶岩、墓碑、石臼なども混じっているという。
- ③犬走り

## 9) 昌幸をまつる真田神社と猿飛佐助伝説の真田井戸

- ①真田神社＝真田昌幸、信之、幸村と仙石、松平両家歴代藩主を合祀。
- ②明治6年廃城と同時に本丸全域を購入した丸山平八郎が神社敷地として寄贈。残地も遊園地、刑務所、学校などを変遷したがほぼ無傷のまま今日に伝わった。多くの名城が廃城とともに跡形なく取り壊されたなか、上田城の意義は大きい。
- ③真田井戸＝県下随一といわれる大井戸。直径2.2m、深さは計測不能という。井戸の途中に横穴があり、太郎山への抜道？とも。猿飛佐助伝説でも知られる。



10) 唯一の現存=西櫓

- ①唯一、当時の位置で今日に伝わる現存建造物。構造は南櫓、北櫓と同じ。
- ②櫓台から再度、尼ヶ淵大断崖を展望、地形がよくわかる。

11) 西虎口から本丸土塁を半周

- ①本丸濠と土居=美しい土居(土塁)。濠は素堀、堀土で土塁を築く。現存のほか土塁上に角櫓4基、2の丸にも8基あった。まもなく桜花が咲き競うお花見会場となる。
- ②西虎口から本丸土塁を一周。かつて白壁塀が巡る。  
北西角櫓跡  
北東角櫓跡  
鬼門避け角欠=災いやもののけが侵入してくる方向。切欠けを作って鬼門を封じる

12) 昌幸親子が住んだ本丸跡

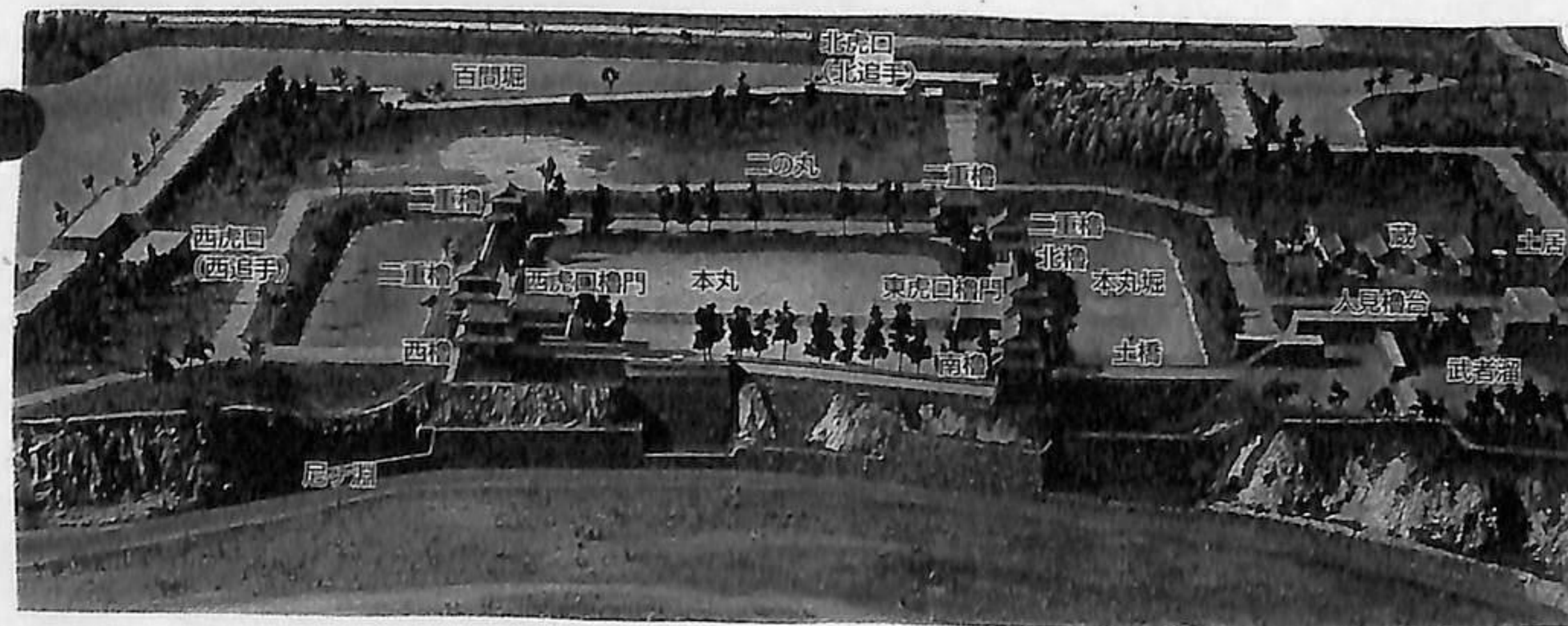
- ①規模=東西119×南北平均100m=総面積11,900㎡。南北段丘に分かれる。
- ②本丸跡=建造物がない空き地。再建の仙石氏が本丸御殿着手前に転封したため。
- ③真田氏当時の居館跡。父昌幸と2人の子、(幸村、信之兄弟らが生活した。金や瓦出土

13) 尼ヶ崎大断崖を下って駐車場へ

- ①崖下から上田城を見上げる。
- ②集合写真
- ③駐車場に待機するバスに乗車、飯山城までの車中で昼食を済ませる。

14) 時間あれば藩主御殿跡(上田高校)に回る

- ①江戸はじめ慶長年間に真田信之が建造した藩主の居館。真田家の転封で城は棄却されたが、藩主御殿は残った。仙石、松平家とも藩主は本丸に住まずこの御殿に居住した。水濠、土塁、表門が現存している。
- ②土塁、水濠は江戸はじめ真田信之当時のもの、かつて御殿を1周したがおよそ半分が現存。白壁の土塀は江戸後期の建造。
- ③表門は江戸後期、寛政2年の建築。薬医門形式、屋根切妻造り、棧瓦葺き、3間1戸、中央大板扉ご門、両側くぐり戸、袖塀。前面の太い角柱に注目。表札は県立上田高校校門として活用されていることを物語る。
- ④かつて門内に藩主御殿、蔵など、現在は校舍、運動場に。



上田城復元模型

河土博物館 (寛政レシート)



→尾ヶ崎から見上げ



河土御校跡

NHK その時歴史が動いた DVDマガジン 戦国時代編

傑作 DVDマガジン 戦国時代編

[Vol.11] 第二次上田合戦の全貌

真田十勇士ピンナップ

我が手に郷土を

真田昌幸・信州上田の市民戦争

真田昌幸が求めていたのは義ではなく、戦いのロマンではないのか

DVDの内容

真田昌幸はどのように領国経営を行ったのか

昌幸は家康とどう対峙するのか

昌幸と家康は再び相まみえるエンディング

関ヶ原の戦い後、昌幸と家康はどうなったのか

その時! 放送

戦国の一匹狼、人生最後の選択

真田十勇士のモデルは誰か?

関ヶ原の合戦「秀忠運参」の真意

現代に昌幸が生きていたら

NHK その時歴史が動いた DVDマガジン 戦国時代編

傑作 DVDマガジン 戦国時代編

[Vol.9] 上杉謙信

第二次上田合戦の全貌

川中島合戦と謙信の城守り

上杉謙信が「謙信家」を訪ねる

西村宗太郎 謙信は天下統一のチャンスを見逃したのか

なぜ謙信は天下統一のチャンスを見逃したのか

DVDの内容

上杉謙信の青年時代

謙信と信長の関係が微妙に変わる

謙信と信長 対決の時が来る

エンディング

謙信の生き方は、どのように伝えられたか

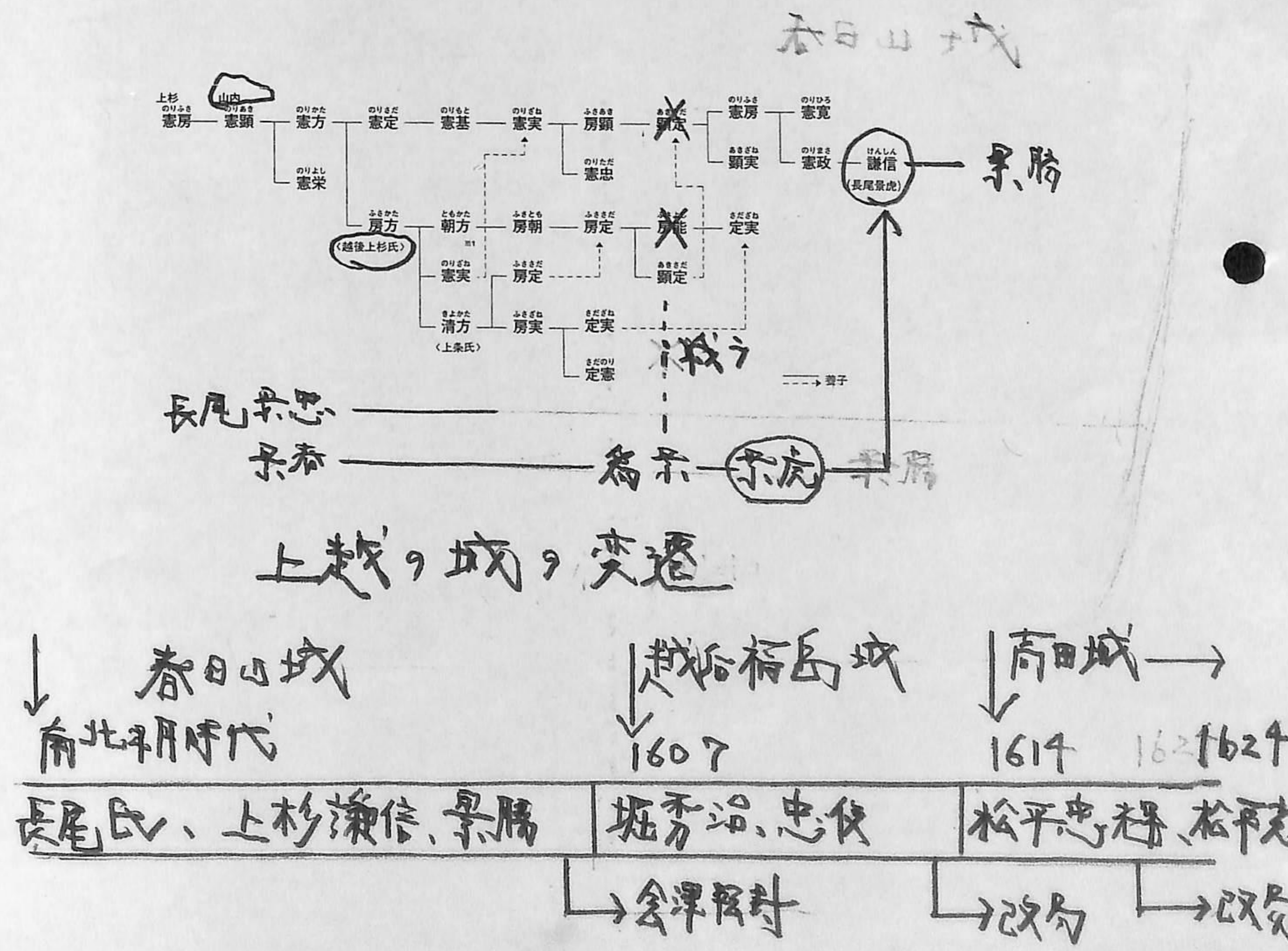
その時! 放送

信長がひたすら恐れた「負けない武将」

最強のライバルと闘わせた不運

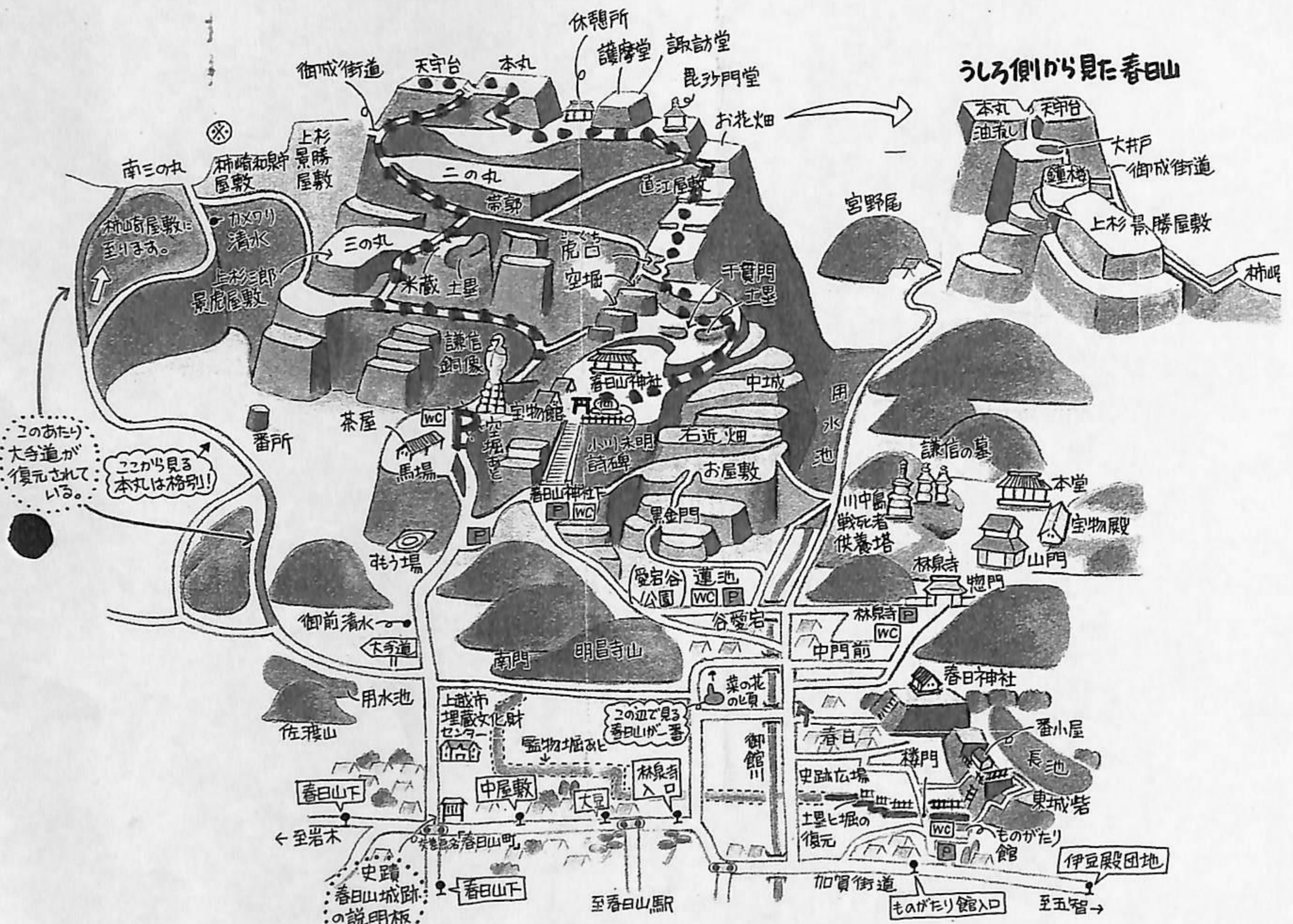
京に憧れをもつ「宗教者」

現代に謙信が生きていたら



# 戦国乱世から織豊、江戸開府へ

## 「越後太守」上越の変遷を歩く 春日山城、越後福島城、高田城



上杉謙信

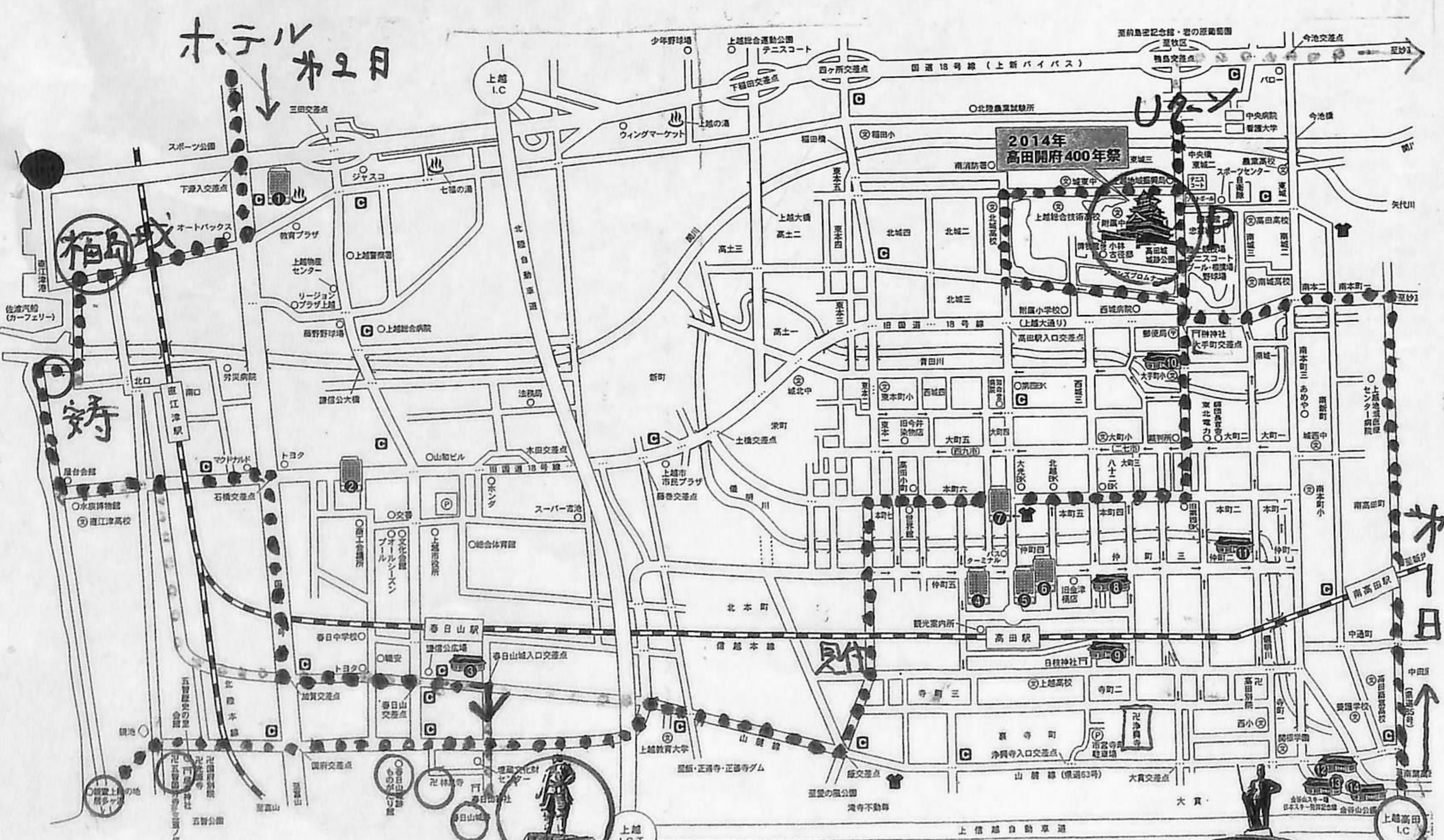
上杉素勝



春日山城 総図

### 上越の歴史

<b>原始・古代の遺跡</b>	1579年 上杉景勝春日山城主となる
旧石器時代 蛇谷遺跡	1598年 上杉景勝会津へ移封され堀秀治入封
縄文時代 龍峰・山屋敷1・鍋屋町・長峰・顕聖寺・黒保・大イノ遺跡	<b>福島城そして高田城へ</b>
弥生時代 吹上・釜蓋・裏山・下馬場遺跡	1607年 堀忠俊、春日山城を廃し福島城に入る
古墳時代 宮口・水科・黒田古墳群、菅原・高士・丸山古墳	1610年 堀忠俊改易、松平忠輝入封
奈良・平安時代 今池・子安・江向・岩ノ原遺跡、本長者原廃寺	1614年 松平忠輝、福島城を廃し高田城築城
<b>親鸞と五智国分寺</b>	1616年 松平忠輝改易
702年 頸城郡が越中から越後へ編入	1624年 松平光長入封
706年 威奈大村が越後国司になる	1679年 「越後騒動」起こる
741年 国分寺・国分尼寺の建立の詔	1681年 松平光長改易
1207年 親鸞聖人越後国府へ流罪となり居多ヶ浜に上陸	1689年 松尾芭蕉「奥の細道」の旅で、直江津・高田で句会
1486年 このころ京都の文化人、惠忠・宗祇・万里集九・管領細川政元・冷泉為広などが次々と越後府中を訪れる	1741年 榊原政永入封
<b>春日山と上杉謙信</b>	1814年 十返舎一九「金の草鞋」紀行で高田の高橋家に滞在
1530年 上杉謙信生まれる	<b>現代の上越</b>
1548年 上杉謙信越後守護代となり春日山城主となる	1886年 信越本線直江津・関山間開通
1553年 上杉謙信1回目の上洛	1911年 レルヒ少佐、日本で初めてスキーの指導 高田市制施行
1559年 上杉謙信2回目の上洛	1954年 直江津市制施行
1560年 関白近衛前嗣越後下向3年間滞在	1966年 直江津港が国際貿易港に定められる
1561年 上杉謙信鎌倉鶴岡八幡宮で関東管領と上杉姓を相続 4回目の川中島合戦で謙信・信玄一騎打ち	1971年 高田・直江津市が合併し、上越市が誕生する
1578年 上杉謙信没 相続争いの「御館の乱」起こる	1988年 北陸自動車道が全線開通する
	1997年 ほくほく線開通
	1999年 上信越自動車道が開通する
	2005年 14市町村が合併し、新しい上越市がスタートする。



- 1) 戦国期最大とうたわれた天下の名城=春日山城
  - ①南北朝動乱期(異説がある)に守護代長尾氏築城、戦国時代、長尾為景とその子上杉謙信が大改修して天下の名城とした。上杉氏を後継した堀氏のとき福島城に移転、廃城。中世から近世初頭にかけておよそ150年間の山城だが、規模は雄大かつ要害堅固、本丸、2の丸、3の丸、御屋敷跡、米蔵跡はじめ規模の大きな曲輪群、大井戸、土塁、空堀など戦国時代の遺構がよく残っている。国指定史蹟。頂上からは謙信も眺めた高田平野と頸城連山、日本海が一望できる。
- 2) 謙信、関東管領となる=長尾氏と上杉氏の関係
  - ①長尾氏=桓武平氏良文流。景弘が相模の長尾庄(横浜市栄区)に住んで長尾次郎を称したことに始まる。鎌倉時代は三浦氏の被官となり、南北朝時代、関東管領山ノ内上杉憲顕に従った景忠が、越後と上野守護代に任じられ、弟景春が越後長尾家として分立、はじめ良く越後上杉氏を補佐した。
  - ②越後上杉氏=長尾家の主家。関東管領山ノ内上杉家3代の弟房方から始まる。顕定は宗家の養子に迎えられる関東管領となる。
  - ③このころ関東の動乱は関東公方、管領の対立から上杉一族の内紛に進み骨肉の争いとなる。越後では謙信の父為景が大乱の首謀者で、主家の房能を殺害、追討のため越後に進軍した関東管領顕定も返り討ちにした。
  - ④顕定の死後管領は息子憲房が継承するが昔日の権威は無い。北条氏康との「川越夜戦」に敗れて平井城へ逃走、続く信濃での武田信玄との戦いにも敗れ、支配権力は上野周辺だけとなった。
  - ⑤天文20年、北条氏康の上野攻めを受けた憲政は落ち先を失い越後に逃れた。憲政が最後に頼りにしたのは、皮肉にも祖父を殺した宿敵の子長尾景虎(謙信)であった。
  - ⑥憲政は謙信に関東回復の夢を託し、上杉姓と関東管領職を譲渡する。
    - \* 巷間、憲政は「謙信に自らの命と引き替えに名前を売った臆病な大将」と酷評される
    - \* 憲政は晩年を御館で居住、気楽な余生を送るはずであったが、相続争いが始まると景虎に付き、敗色が濃くなると脱出、途中捕縛、殺害された。
  - ⑦関東管領職を引き継いだ謙信は以後、武田、北条氏を相手に関東での「義戦」を展開することになる。
    - \* 永禄元年謙信は第2回上洛で将軍足利義輝と対面、関東管領が公認された

# 「義」に生きた上杉謙信の「春日山城」を歩く

## 1) 春日山の山麓に巨大城下がひろがる＝春日山城

- ①バスは越後福島城から南西およそ3kmの春日山城に移動する。  
\*福島城外堀の関川は春日山城の外堀でもある。JR直江津から春日山駅一帯にかけて数万人規模の巨大城下が広がった。
- ②応化橋（直江津橋）が城下の入口、越後1国におよぶ領内最要路。橋周辺に重臣を配備した。通常は橋を守り、緊急時は落として道路を遮断した。
- ③春日、中屋敷地区周辺一帯と直江津府中（府内）が城下の中心地であった。
- ④春日山廃城にともない領民は福島城下移転を命じられ、三転して高田城下に定まった。  
\*城下では「楽市楽座」など町民の誘致、保護政策がとられた
- ⑤福島移転後の春日山は急激にさびれ、以後数百年間は田園地帯となった。  
一帯が住宅地として開発されたのは昭和のバブル期以降のことである。

## 2) 上杉謙信像を見上げる＝像前駐車場で降車

- ①城下を縦断する加賀街道（北陸道）を進み、「春日山町交差点」を右折、ほどなく春日山城内、いったん春日山神社下駐車場で降車、トイレタイム。再乗車して一段上の上杉謙信銅像前駐車場へ進む。
- ②上杉謙信像を見上げる。  
大河ドラマ「天と地」を記念。目線は春日山城下と頸城平野から川中島をにらみ、その先関東の治安維持と「天下国家」の安寧があった。  
\*春日山城市教育委員会看板＝上杉謙信の居城として知られる春日山城は、今から約600年ほど前南北朝時代に築かれ、越後府中を守る拠点であった。その後、謙信公の父為景公、謙信公、景勝公の3代にわたり普請に努め、現在見られるような巨大な大城郭になったと考えられている。春日山城の特徴は、山頂の本丸跡から山裾まで連続する屋敷跡群と、裾野に巡らされた総延長1200mの総構え（通称監物堀）である。関東管領として、関東、北陸に覇を唱えた戦国大名の居城にふさわしい大城郭といえる。（以下省略）
- ③地形、現在地の確認。茶屋一帯＝馬場跡。空堀跡。

## 3) 上杉謙信を祀る春日山神社

- ①明治34年旧高田藩臣が浄財を集めて創建。上杉謙信を祀る。毎年8月謙信公祭が盛大に開催される。  
\*春日山神社史蹟看板＝（省略）
- ②ここで2コースに分かれる。本隊は野趣あふれるからめ手ルート、足元不備の方は整備された観光ルートをへ行けるところまで。



春日山神社



↑↓ 謙信像



↑↓からこの手コースと分れる



謙信公祭



## 4) 千貫門跡周辺の守りからめてルートを進む

- ①本隊は春日山神社裏手のやや急坂を登る。足元が悪いので注意が必要だ。
- ②比高（麓から）150m。直線距離でおよそ1キロ。本丸めざして城攻め開始。城は尾根を20か所ほどの掘り切りで区切られ、幾重もの門と曲輪が続く。
- ③お屋敷跡（遠望）＝謙信の生活した館跡。華麗な桃山殿舎が考えられるが未発掘のため不詳。  
\*緊急時は自焼して本丸に籠って戦う。
- ④重臣邸曲輪＝杉林に潜む重臣屋敷跡
- ⑤千貫門跡＝古地図に記すが由来や形式など未詳。狭いが櫓門が考えられる。  
\*千貫門史蹟看板＝春日山城の古絵図に必ず描かれている門が千貫門である。いまでも門が立っていたと考えられる部分のみ土塁が分断されている（中略）三方が土塁と土手に囲まれ左に二本、一見道と思われる切り通しがある。実はこれは空堀の底で、侵入者を空堀から急峻ながげ下に落とそうとしたものであろう。
- ⑥虎口＝城郭や陣営の出入り口のこと。曲がりくねった坂道になっている。
- ⑦帯曲輪＝武者走り。緊急時は兵士の移動路で、登りくる敵を長柄槍（鏑）や弓鉄砲で撃退する。

## 5) 景勝の懐刀＝直江兼続屋敷跡

- ①直江屋敷跡＝謙信の知恵袋直江信綱、景勝の名参謀兼続の屋敷跡。  
\*直江屋敷史蹟看板＝上杉家の重臣直江家の屋敷跡と伝えられ、お花畑から千貫門までの間に上下三段の郭が造られています。（中略）直江家は上杉謙信の父為景の代から重臣として仕え、山城守兼続は謙信の跡目を継いだ景勝の家老として活躍したことがよく知られています。景勝が会津へ国替えになったときに同行し、米澤藩30万石の城主となったことでもその活躍がしのべれます。

## 6) いざ出陣、神前で戦勝を祈願＝毘沙門堂

- ①謙信が信仰した毘沙門天を祀る。堂は昭和6年の復興、宝形造りの小祠。出陣儀式の地。毘沙門天を礼拝、神水を水筒に移し、床几に腰をかける。重臣の大將が毘の旗、家宝の弓、天賜御旗を奉じ、全軍の待つ小峰が原へ進む。ホラを吹き鳴らす中、粛々と現れた謙信は興に弓と御旗を収め、毘旗を先頭に進発した。  
\*毘沙門堂史蹟看板＝この御堂には謙信公の信仰された毘沙門天の尊像が安置されています。（中略）毘沙門天は悪魔を降す神です。謙信は自らの軍を降魔の軍とみなし、毘の字の旗を陣頭にかざし、またことあるときはこの堂前で諸將に誓いを立てさせました。毘沙門天は四天王のうち北方を守る多聞天でもありました。（中略）公は王城の北方を守るという意気を持っていたものと思われる。
- ②護摩堂跡、休憩所



千貫門跡



直江屋敷跡



途中9眺望



毘沙門天

7) 絶景の日本海や頸城連山を見渡す＝本丸

- ①本丸に到着。標高182m。東西27m、南北35m、意外と狭い。城主は普段、山裾の「御屋敷」に居住したとされ、いわば「詰めの城」。本丸御殿の規模などは未詳。しかし、謙信は日常的に本丸に登ったとみられることからそれなりの建造物が存在したといえる。
- \*本丸史蹟看板＝南隣の大手台とともに春日山城の「お天上」と呼ばれた所です標高180mの本丸からはかつての越後府中と周辺の山々の支城跡や日本海が一望できます。
- ②本丸展望台から日本海と頸城平野、北アルプスの山々を一望。しばし疲れを忘れる。
- ③南側2mほどの空堀を挟んで天守台跡がある。上杉景勝や堀秀治時代は築城ラッシュで有力大名は競って豪華絢爛の天守建造を進めた。春日山城にも当然あったと考えられるが規模や形式は未詳。
- ④大井戸跡＝本丸水の手。直径10m、深さ10m。現在も源泉は枯れない。
- ⑤上杉景勝屋敷跡＝謙信の跡目を継承した景勝屋敷跡。景勝は兼統のアドバイスに従い、ただちに本丸を奪取、後継争いに完勝した。

8) 2の丸、3の丸、米蔵を通って駐車場へ戻る。

- ①本丸から2の丸、3の丸へ降りる。3の丸は手前が米蔵跡で周囲に土塁と縦堀ががよく残る。
- \*2の丸屋敷史蹟看板＝本丸から毘沙門堂をへてお花畑に至る実城と呼ばれる郭群の東裾を取り巻くように作られた郭で（中略）本丸を带状に囲っている様子はまさに本丸の警護として造作されたことを示すものと考えられます。古絵図には御二階、台所と記され、現在も井戸跡が残っています
- \*3の丸屋敷跡史蹟看板＝春日山ではもっとも良好な状態で土塁が残る「米蔵跡」、謙信公が自らの名前を与えて住ませた養子「三郎景虎屋敷跡」などを総称して「三の丸屋敷跡」と呼ぶ。それぞれの屋敷は段違いに作られて区分され、「景虎屋敷跡」の東端に入り口が設けられ今も道が残っている。「米蔵跡」の名が示すように、城機能の中核施設が置かれた場所と考えられている。（後略）
- \*縦堀史蹟看板
- \*上杉三郎景虎屋敷史蹟看板＝上杉謙信の死後、跡目を争った「御館の乱」で敗れた悲劇の武将三郎景虎。小田原城主北条氏康の子で、人質として春日山城に来ました。謙信から景虎の名を与えられたことでも人質としては破格の待遇であったことがわかります。また美男として伝えられています。跡目跡目争いでは越後国外からの人質であったためか次第に援助の武将も離れ、最後は自害して一生を終えました。（後略）
- \*甘粕近江守屋敷跡史蹟看板＝永禄4年の川中島大合戦のさい、信玄得意のきつつき戦法による迂回軍の進路をはばみ奮戦しその名をはせた勇将。
- ②謙信銅像前にもどりバス乗車。史蹟広場、ものがたり館に移動する。

9) 東城と監物堀。春日山史蹟広場、ものがたり館＝周辺で休息、昼食弁当とします

- 東城と監物堀＝上杉氏に変わって春日山城に入った堀氏が築いた総構え城郭。水濠を築き、土塁と柵を巡らし、濠の内側には武家屋敷のほか町屋を取りこむ。
- \*監物堀の名は一門で家老の堀監物直政に由来する。「天下の陪臣三傑」と謳われた重臣で、三条に5万石を与えられ、春日山城の改修、福島城新築にあたった。
- ②ものがたり館＝春日山城の概要と謙信の生涯を映像やパネルで紹介。休憩時間に自由見学。
- ③昼食休憩の後、上杉氏菩提寺の林泉寺に回る。

→ 本丸



↑ものがたり館



北アルプスや日本海を一望

←天守跡



「天下普請」が作った土の巨城「高田城」を歩く

1) 「天下普請」で伊達政宗が築いた北陸の抑え＝高田城の概要

- ①慶長19年(1614)、松平忠輝が伊達政宗、上杉景勝ら外様大名13名を助役に築城。福島城から移転。工期4か月。大坂緊迫のため工事を急いだので石垣のない土の城。天守も作らず本丸三層櫓を代替え。未完成のうちに改易。酒井家次、松平忠昌をへた松平光長が大改造した。
- ②江戸後期は榊原15万石城下として栄えたが、維新直後の明治3年本丸殿舎など建造物のほぼすべてを焼失。6年存城、23年残存遺跡を売却した上で旧藩主に城地が払下げられ、さらに軍隊の駐屯地として献納された。明治後期から昭和の終戦まで陸軍兵営として使用された。
- ③関川(荒川)の水路を変更して作られた3重濠と青田川、儀明川が囲む輪郭式総構え城郭。ほぼ300m方形の本丸を中心に2の丸、3の丸、武家屋敷のある外郭からなる。それぞれに水濠、土塁を巡らせた土の城で、本丸に虎口3、三重櫓、櫓台(二重櫓跡?)、多間櫓2、茶屋台、櫓門2と城主が居住した本丸殿舎をおいた。平成5年「御三重櫓」を復元。城址一帯は高田公園として保存整備され、「3大夜桜」の花見期は大勢の見物客が訪れる。今回は「城見」に集中する。

2) 秀忠に反抗して改易された家康の6男＝松平忠輝

- ①徳川家康の6男。生母は茶阿の局。徳川家と伊達家の政略結婚で正室は政宗の娘いろは姫。慶長19年川中島14万石から栄進、越後1か国60万石を領有するが、兄秀忠を軽蔑して反抗したため、元和2年25歳で改易。天和3年配流の諏訪高島城で92才の天寿をまっとうした。

3) 反綱吉派として取り潰された御四家＝松平光長

- ①越前徳川家2代忠直と秀忠3女高田姫勝子の嫡子。寛永2年、忠直の改易にともない叔父忠昌と入れ代わりに高田40万石に転封。在封57年、従三位権中將、越前家の直系として御三家に次ぐ「御四家」と称された。
- ②4代將軍家綱の後継争いで自らの近親者を推薦するが綱吉に敗れ、報復人事で改易される。これを「越後騒動」といい、綱吉の電光石火の処分に諸大名は震え上がった。宝永4年逝去、93才であった。

4) 徳川四天王康政以来の名家＝榊原家

- ①徳川創成期の勇将・榊原康政の直系子孫。姫路15万石であった8代政岑が放埒の限りを尽くして吉宗から隠居を命ぜられ高田に左遷された。
- ②高田は雪国、同じ15万石でも実収は姫路の半分にも満たない。財政破綻をきたし歴代藩主は藩政改革に取り組んだ。14代政敬のとき明治維新。歴代藩主の墓は深川靈巖寺にあり、政岑は春日山林泉寺だが謹慎のため明治まで金網に包まれた。



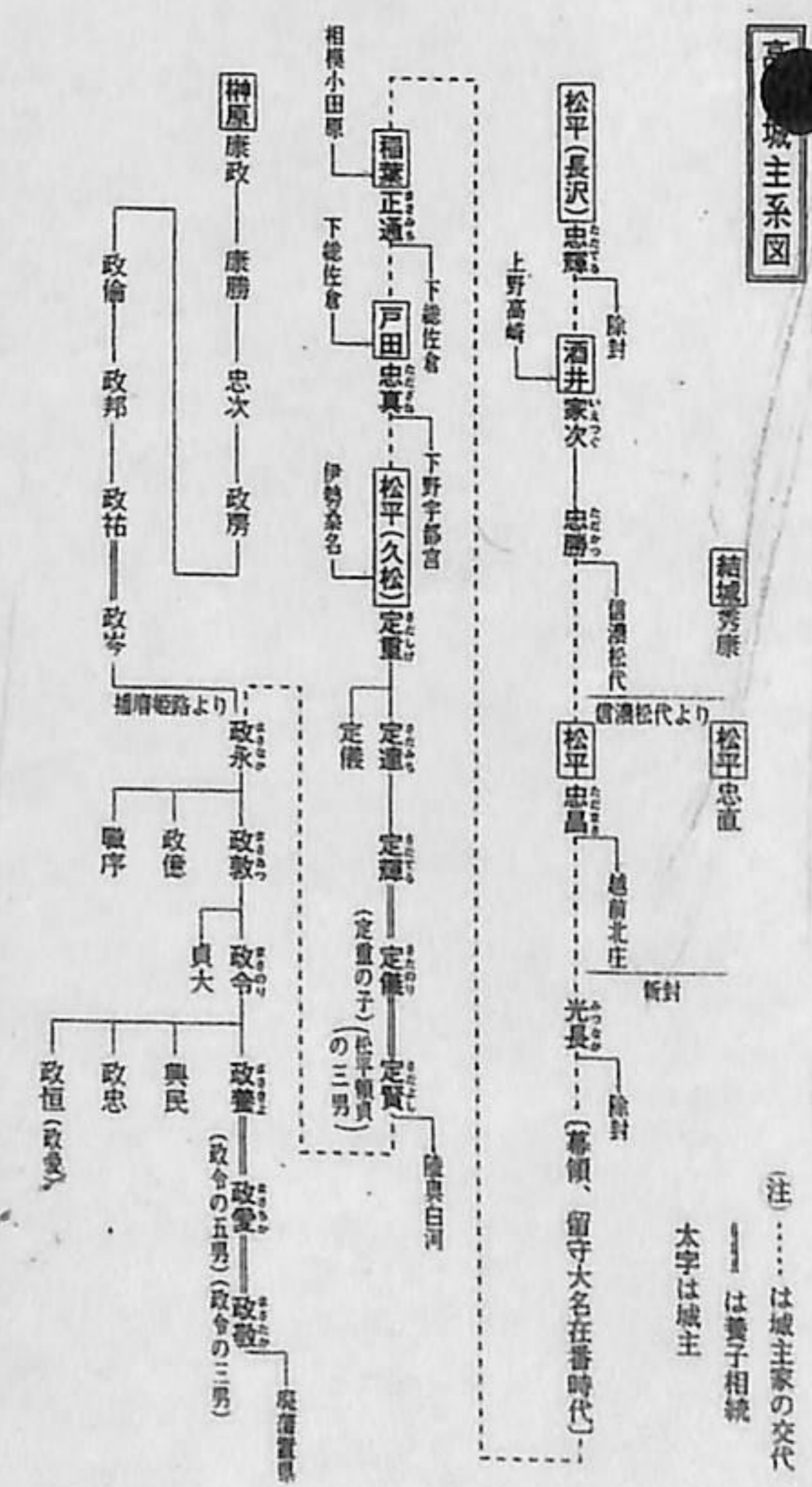
御子重



一築城者松平忠輝



←バカボノ伊達政宗



5) 中学の歴史教科書に登場する典型的な城下町＝高田城下

- ①北陸道の主要宿場町、榑原藩城下町として繁栄。延宝年間に人口は町人2万余を数えた。
- ②城の周りに武家地、そのまわりに町屋、寺町が配置された。町屋には職業別に呉服町、鍛冶町、大工町、かわら町などがあり、寺町や道路に防備上の工夫がこらした。
  - \* 二重寺町防御線、出入口連続クランク（枅形）、五の字道、食い違い、凸凹家並み、家隙間なし
- ③豪雪地帯として有名。町家は雪よけの雁木（個人宅ひさし）が続く。
  - \* ことしの積雪は3m。昔はこれが普通「この下に高田あり」の落首も知られる
  - \* 市街の道路は屋根の「雪おろし」場で、人々は雁木と雪のトンネルを生活道路とし、時に2階の窓が玄関となった。近年は道路からの噴水で消雪している
- ④かつて旧街道の本町通りがメイン道路であったが、いまはバイパス道路（上越、脇野田、新井線）が幹線となり、旧市街地は過疎化している。

6) 城下町を通り抜け、城址公園水濠へ出る＝外濠と大手門跡

- ①バスは春日山城からほぼ旧北陸道（加賀街道）に沿って高田めざす。
  - \* 江戸時代は加賀100万石の前田家など北陸諸大名の参勤交代路であった
- ②高田城下の中心部（宿場町）を通り抜ける。
  - 見付＝城下の入り口、番所を構えた
  - 表寺町、裏寺町＝二重防御ライン。寺を侵すことを嫌う。緊急時は外郭、兵がこもって戦う
  - 雁木通り＝表道路はデザイン化されたニュー雁木、仲町や大町通りに昔ながらの町並みが残る
  - 本町通り＝紺屋町、両替町、呉服町。職別区分け、宿場町の中心地。空洞化もめだつ
  - 司令部通り＝城下から城への大手道、武家屋敷地で重臣邸が続いた
  - おんまだし（馬出し）＝大手門前の守り
  - 榑神社＝明治 年創建。初代榑原政康以下歴代藩主を祀る
  - 大手門跡＝外濠にかかる長い木橋と枅形門垣跡。ほぼ旧地に築かれた土橋をわたる
- ③しばらく進むと一転広いハス池が視界に飛び込む。ここからが城址公園になる。
  - 濠幅100～200m、関川（荒川）を迂回させて作った外濠でかつての総面積24haのおよそ3分の2が現存。ハスは明治4年の廃藩置県の時、戸野目村の人が権利をえて栽培した。
  - \* みごとなハス池は東洋一という
- ④外濠の内側が主郭、本丸と2の丸、3の丸からなる。すすんで城址公園駐車場で降車。
- ⑤3の丸、2の丸＝かつて大手曲輪から3の丸を迂回、2の丸をへて本丸に通じたが、間を分けた2の丸水濠や土塁、堀などが取り壊され、現在は一体になっている。
  - \* 現状はスポーツセンターと公園、駐車場。陸上競技場、野球場、テニスコートなど
- ⑥3の丸外濠を遠望、3の丸、2の丸などの地形と現在地を確認してスタート。

7) 内濠越しに三重櫓を見上げる＝本丸大手橋前

- ①目の前に内濠と土塁上に本丸「三重櫓」が輝く。水戸城、金沢城などと同様、天守ではなく御三重櫓と呼ばれた。
- ②松平忠輝当時は福島城天守を移築したと考えられるが未詳。寛文5年松平光長が再建、現存図面から1重に大屋根をもった復古後期望楼型天守であったが、享保18年の松平越中守家時代、財政難で後期望楼型へと大改修されたものと考えられている。明治3年焼失。
- ③幕末まで残った実質天守閣。城下からも見え領民に親しまれた。
  - 平時は武器倉庫で施錠、緊急時の射場。藩主といえどもめったに立ち入ることはなかった。
- ④平成5年、現存絵図、発掘調査結果を参考に鉄筋コンクリート、内外装木造建築で松平光長時代の望楼型を復元、しかし参考書の多くは復興とする。今回は角度で姿を変える三重櫓の景観を楽しむ。
  - \* 土塁天守＝石垣はなく土壇天守台にたつ
  - \* 三重三階＝3重は屋根数。3階は内部のフロア数。外観も建物も3階建てという意味。
  - \* 望楼型天守＝独立式、望楼型。平屋入母屋造りの屋根に望楼を載せる。古い天守形式で当時は五重塔型の層塔型が主流で、御三階の可能性も指摘できる
  - \* 1階を母屋、2階破風の間、3階を望楼の間という。破風の間は天井が低く明かり窓兼の射撃用武者窓程度となる。ここでは破風の間にも屋根がある。内部はそれぞれを武者走りの入り側が囲む
  - \* 屋根＝入母屋造り、本瓦葺き、しゃち
  - \* 飾り破風＝3重、初重とも入母屋破風、右側東平側に千鳥破風がみえる。この櫓に唐破風はない
  - \* 黒い天守＝壁面は上半分が白漆喰、柱のみえる真壁。下は黒うるし塗装下地板張り。望楼型は黒、層塔型は白い天守が多い
- ⑤望楼に高欄もなく飾り破風も華美にすぎない。総じて質素だが高尚な造りといえる。

8) 大坂緊迫、土塁で築かれた「天下普請」の現存＝内濠と土塁

- ①内濠と土塁は慶長19年伊達政宗縄張り水濠と土塁の現存。石垣でない理由は、大坂の情勢が緊迫し工事を急いだためとされる。土木工事は信越大名が助役した。
- ②折りを多用、大手は屈曲し横矢を意識、濠幅は広く鉄砲戦に備える近世城郭の造り。
  - \* 内濠総延長2672m、面積49453㎡、水深1から6m、平均4m。やげん掘り。
- ③土塁＝4区画延べ871m、高さ10m、土塁底辺30m、頂面5～10m。櫓台はやや出隅、盛り土がある。傾斜角度おおむね30度程度。



枅形跡



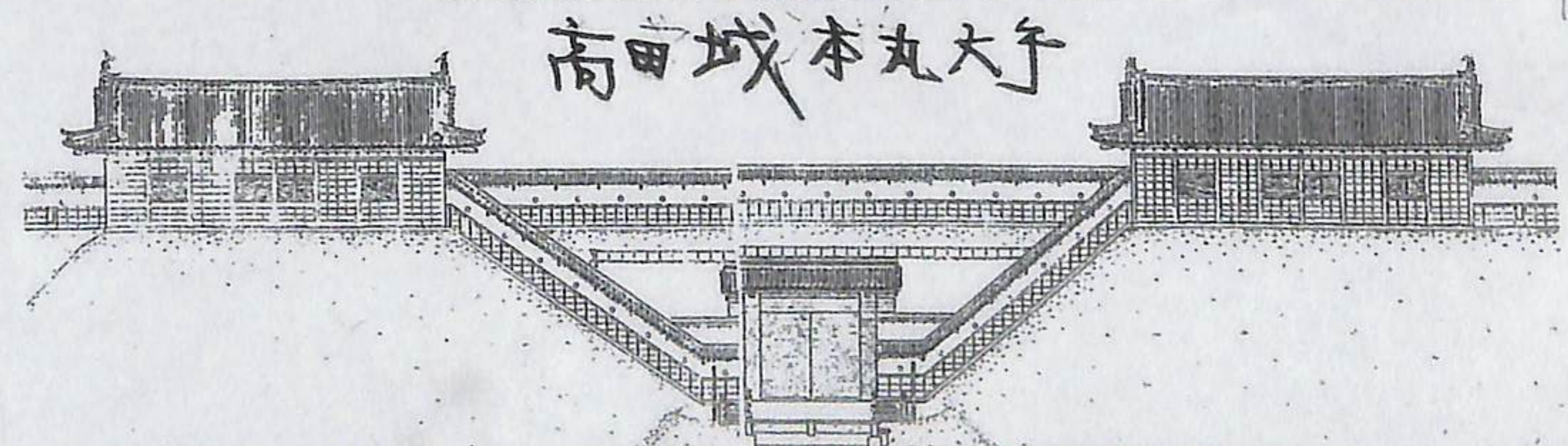
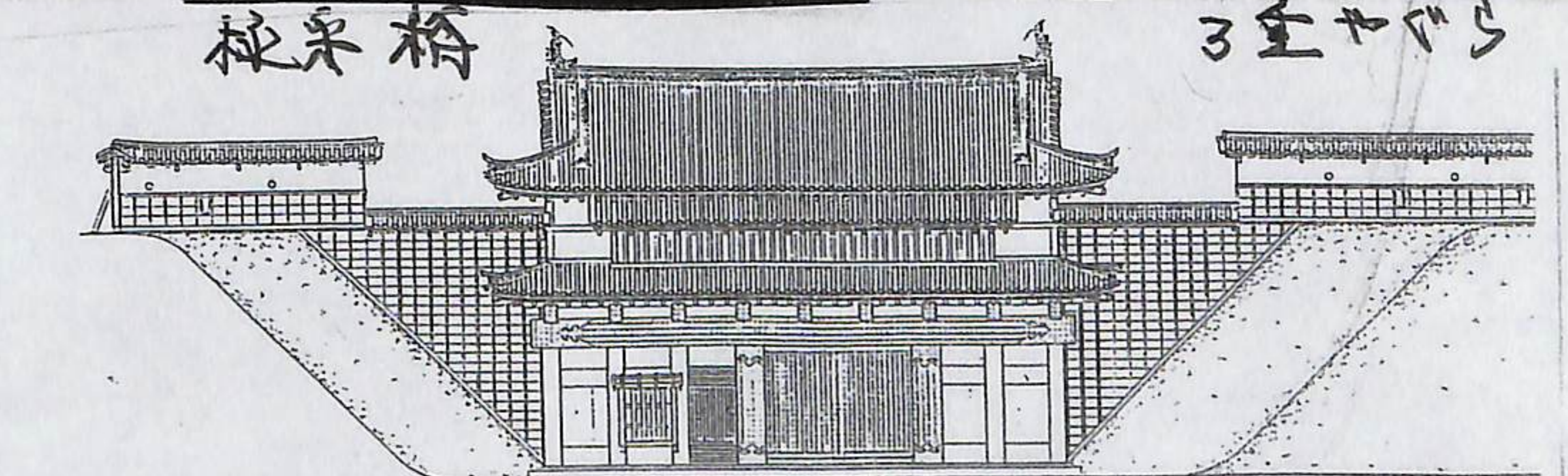
榑原橋



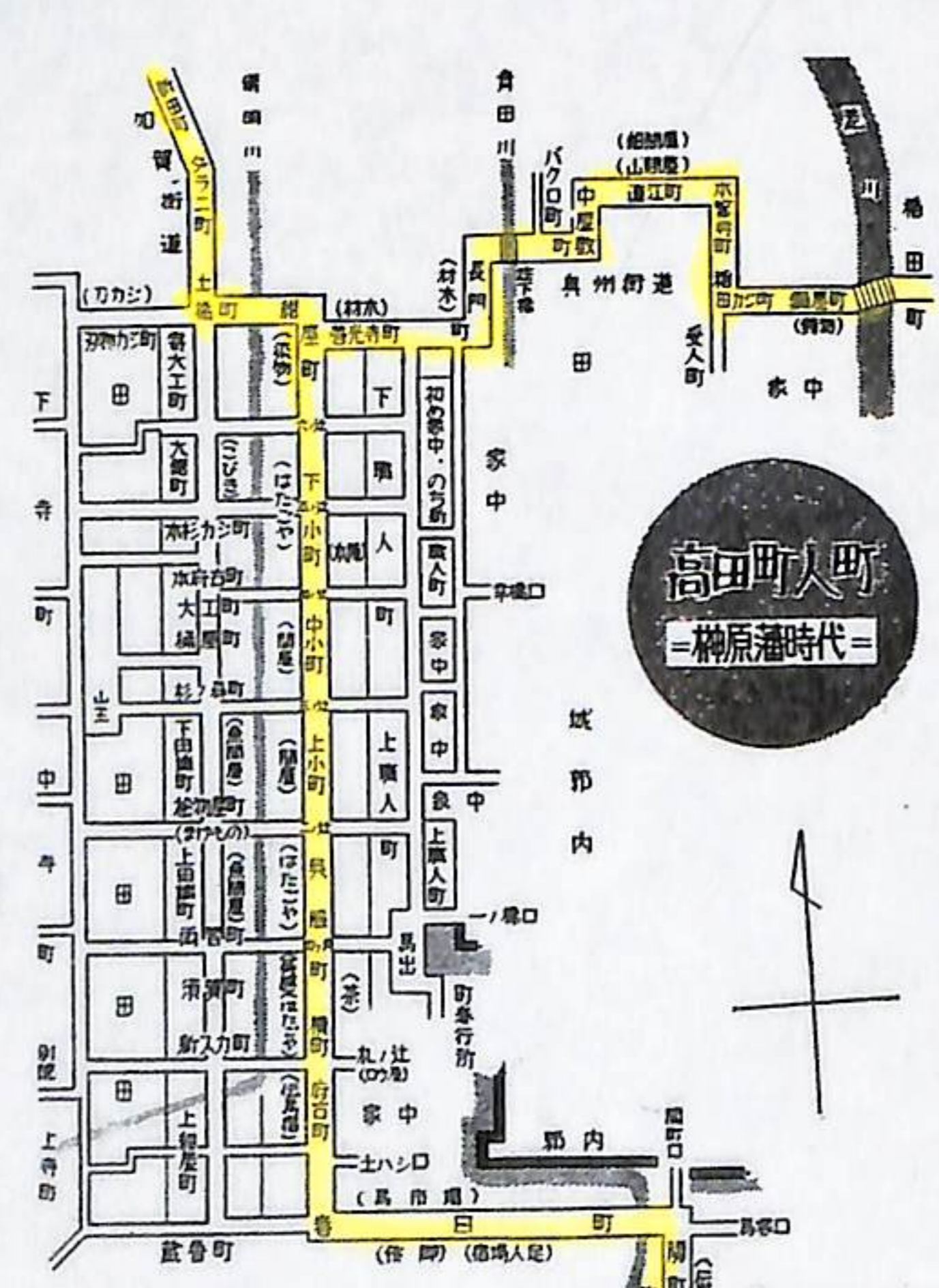
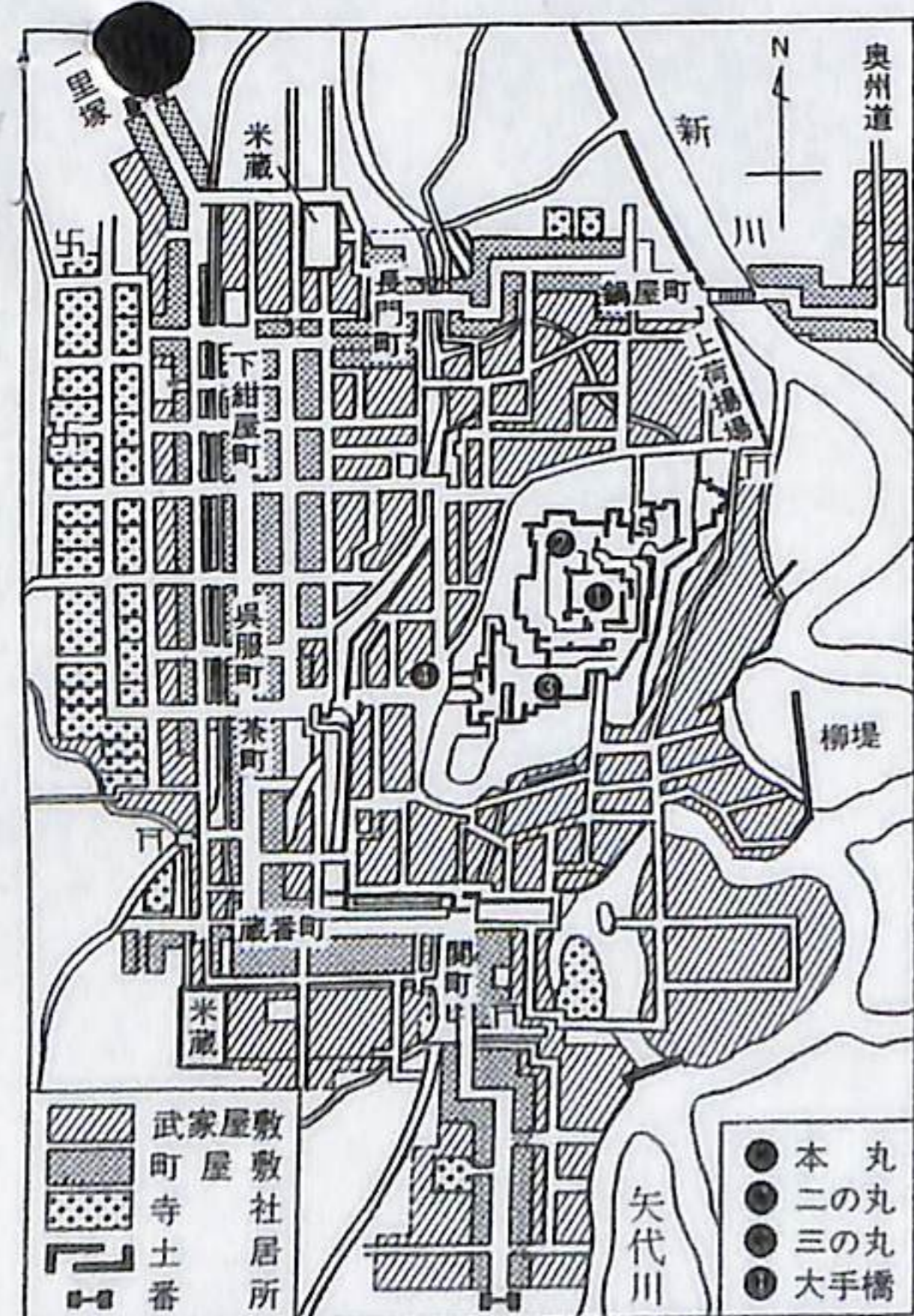
3重やぐら



本丸跡



高田城本丸大手



雁木通り



← 中学校跡  
新堀日本橋 (旧寺内)

高田の城下町（今の上越市）城の周辺に武家屋敷、そのまわりに町屋敷、寺町が配置された。町屋敷には、職業ごとの呉服町・鍛冶町・大工町などがあり、江戸には、出身地ごとの近江町・尾張町などもあった。寺町や道路の配置に

9) この先は極楽浄土に広がる=珍しい極楽橋

- ①本丸の虎口は3か所だが、うち2か所は「不明門（あかずのもん）」。登城大手口で極楽門、下乗門といわれた。
- ②復元された極楽門を渡る。極楽橋はこの先に極楽浄土が広がるという意味。城の橋名としては珍しく大坂城、関宿城など数例がある。
- \* 極楽橋史蹟看板=極楽橋は徳川家康の6男松平忠輝が慶長19年高田城を築城した際2の丸から本丸に通じる木橋として設けられました。(中略) 写真は調査によって発見された橋脚です
- \* 長さ23間、幅2間半、緊急時は落とす

10) 江戸城をしのぐ巨大枅形、大手の守り=枅形虎口

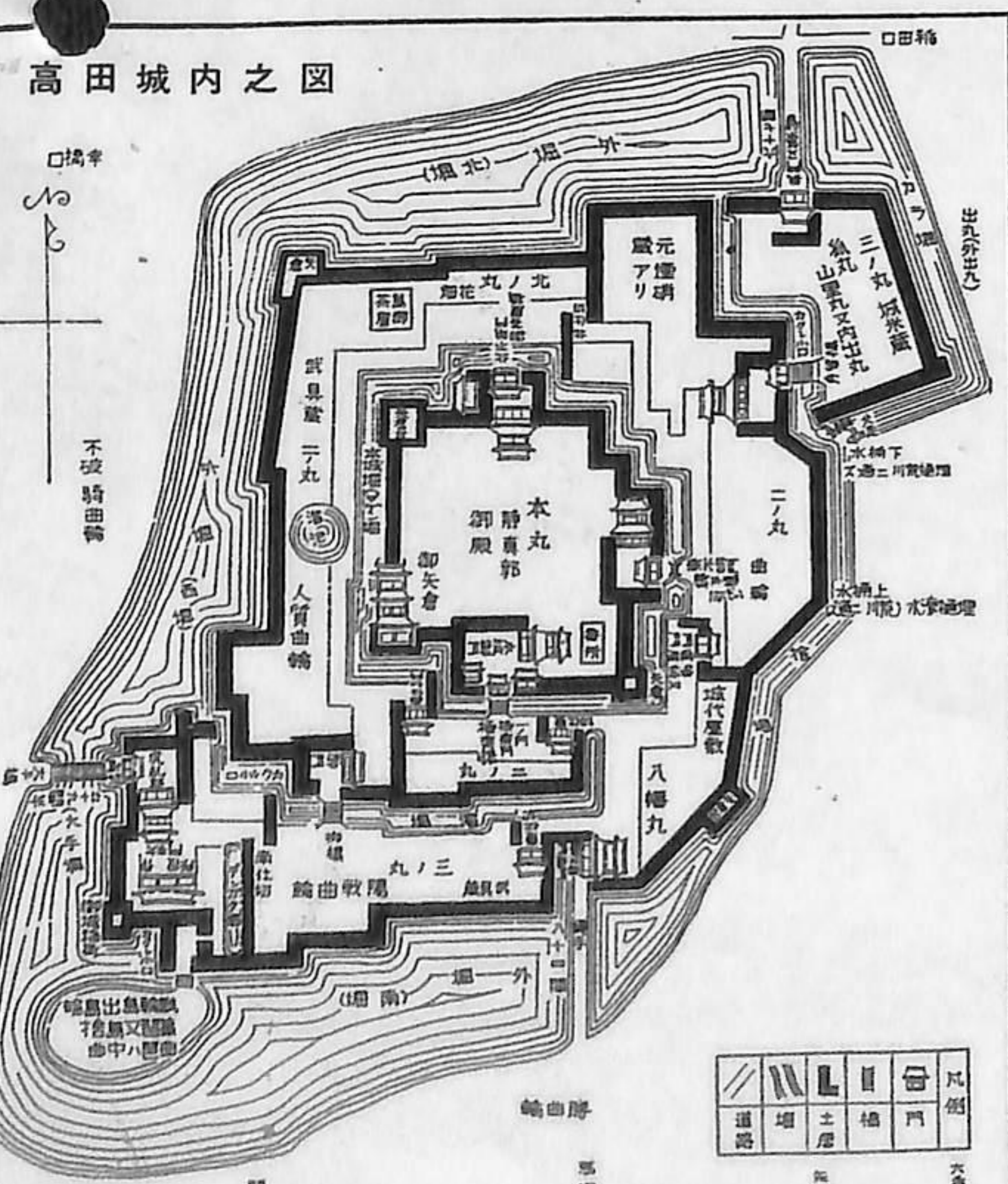
- ①極楽橋を渡ると本丸大手枅形に出る。東西25間×南北30間。江戸城本丸の17間×15間、名古屋城15間×15間とくらべ枅群の広さがある。
- ②御三家に準じた徳川一門としての格式を示したといえる。わが国最大規模の枅形。
- \* 枅形は攻守の要めで「入りに難しく、出やすく」作る
- ③四方を土塁、白漆喰塀で固めた枅形。2の門は薬門形式で通称をけだし門、また廊下門といった。土塁斜面の続き塀が廊下橋に見えたことに由来した。
- ④内枅形右折れ。1の門は間口8間の壮大な櫓門で通称「鉄（くろがね）門」といった。1階が通路で2階は武器倉庫で戦時は射場となった。
- 稲葉丹波守時代本城間尺=本城御門櫓。瓦やね。3間梁に8間、大柱厚さ1尺8寸と幅3尺、次の柱厚さ1尺7寸に幅2尺、扉高さ1丈1尺、横7尺4寸5分、戸カマチ7寸5分に6寸5分(以下略)
- \* 高田城の廃城と陸軍第13師団史蹟看板、本丸跡碑、高田城址史蹟看板

11) 櫓門は春日山城からの移築だった=東不明門

- ①本丸3虎口の1つであかずの門。濠に「引き橋」（そろばん橋?）、普段は引き上げ、緊急時にかける脱出口。奥向きにも同じ脱出用のからめ手、北不明門がある。
- \* 橋台、引き橋、橋台、2の門、総土塁内枅形右折れ、番所、1の門
- ②1の門は春日山城、福島城移築2階建て櫓門で堀秀治建造と伝わる。

12) 「御四家」を意識した本格的桃山殿舎=本丸御殿跡

- ①本丸全体の規模は東西130間、南北140間、およそ1万8千坪ある。江戸幕府の「天下普請」では江戸城、大坂城に次ぎ駿府城や名古屋城、二条城をしのいでいる。
- ②本丸には本丸御殿が置かれた。御殿絵図は年代別の数点が現存して概況が知れる。時代ごとに規模の差異があるがおおむね玄関広間、表向き、中奥、奥向きにわかれる。



- \* 広間=邸内最高の格式の場で客と主人が儀礼的な空間
- \* 表向き=藩庁舎、政治の場
- \* 中奥=大名の日常の場、寝所(御座の間)、書院、対面所、小姓室、配膳室(料理の間)など
- \* 奥向き=側室、子女の居所。正室は人質として江戸に居住
- \* 玄関左の明き地はお成り御門、御殿などに備える
- \* これらの基本ルールは江戸時代を通じた大名屋敷において踏襲された
- ③その構成は一見複雑だが、玄関を東南隅に取り、そこから主要建物を雁行して配置する。
- ④北西隅の土塁上の「涼所」は、夏の夜に利用する数寄屋空間であろうか。名古屋城など一部しか確認できず大変珍しいのではないか。
- \* 高田城絵図、史蹟看板、上越教育大学付属中学校(旧新潟大学教育学部)

13) ゆかりの資料館を自由見学=御三重櫓

- ①徳川御三家に次ぐ格式、武家正統を意識した御殿風意匠天守閣。城絵図と時代考証で復元したとされる。木造と鉄骨(骨組み)混成した3階建て伝統的木質建築物。
- ②東側面平側3重軒千鳥破風出窓、初重大千鳥破風出窓、北出入口正面軒千鳥破風。
- ③内部は郷土資料館として一般公開=自由見学15分
- \* 城絵図、古文書、シャチ、瓦、城内出土品、パネルなどを展示

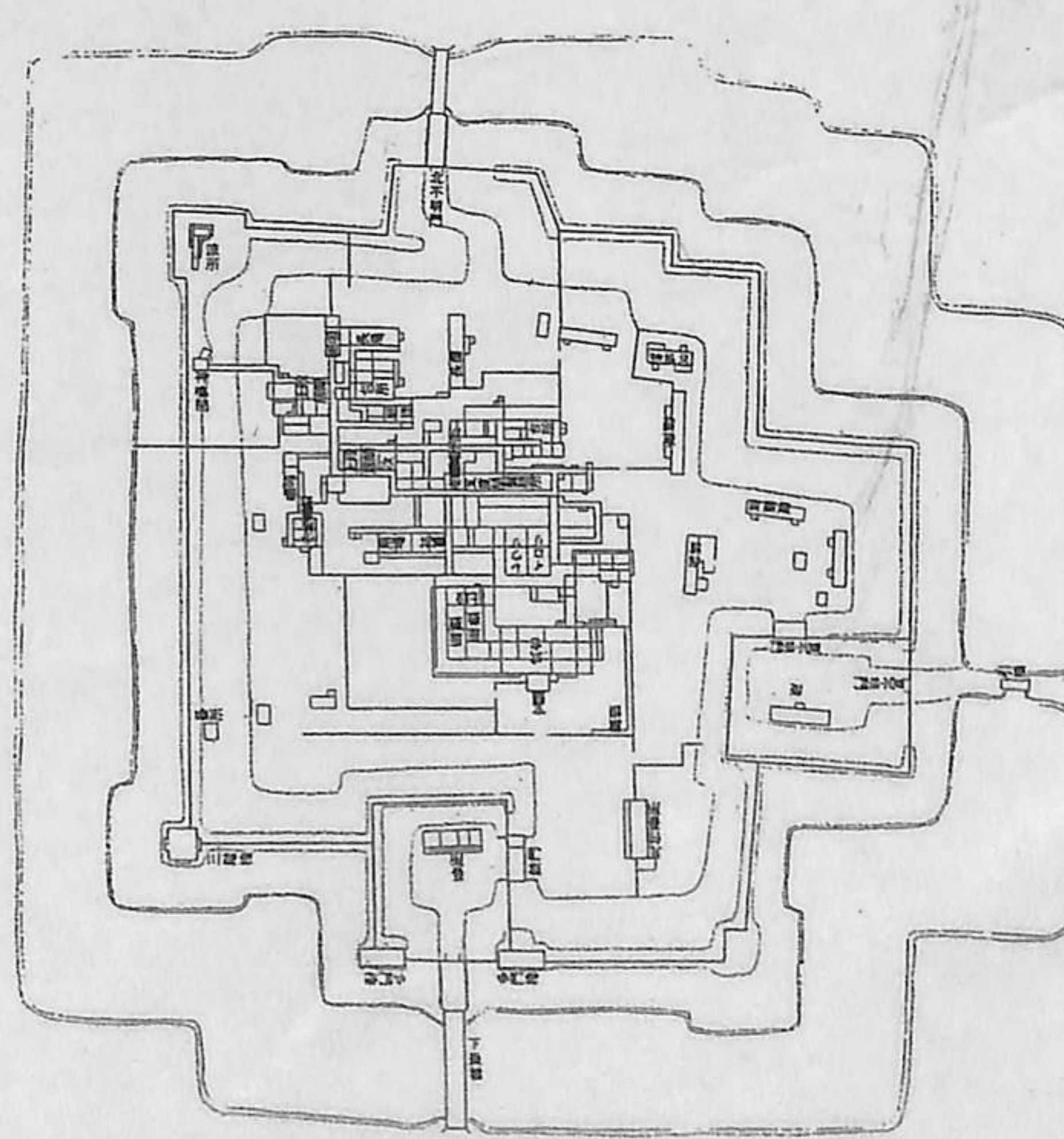
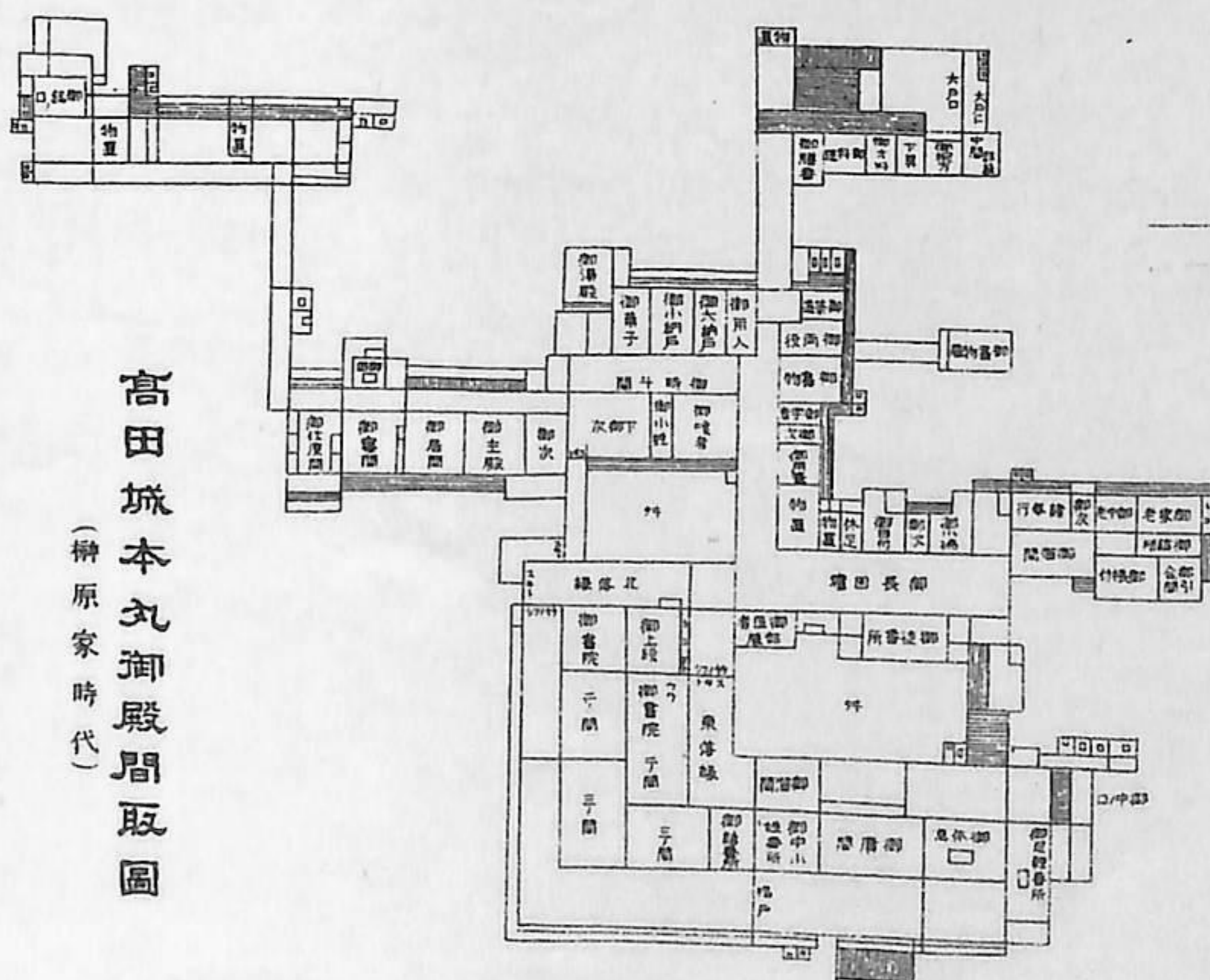
14) 本丸土塁の犬走りを進む

- ①内濠土塁に沿って犬走りを20mほど進む。土塁はその後の崩落で当時の姿をとどめていない。現況は高さ9~10m、頂上幅5~10m、底辺はほぼ30m。外周角度は芝土居などで当時は45度に近かったといえる。犬走りは一部2段。西側に折りが無いのは虎口がなく攻め込まれないため。
- \* 最先端は隅櫓台。やや出隅になっている
- \* 元気な方は土塁に登り、本丸全景を眺望、注意されないうちに降りる
- \* 犬走り=土塁の中段や濠上におよそ1間幅で作った帯状の通路をいう。這い上がった敵兵がこの上に立つと上から長柄鎧で確実につける

15) 城址公園を外濠へ=バス乗車

- ①城址公園側の土橋は江戸時代はなかった後付け、陸軍師団の軍用道路を渡る。
- ②2の丸跡。2の丸は幅100mほど、帯曲輪状に本丸を一周する。かつて武器蔵、硝煙蔵、花畑などとされた。現在は市立博物館、美術館、移築復元された小林古径、上越総合技術高校(旧高田工業高校)などがある。桜咲くころはお花見のメイン会場となる。
- ③2の丸土塁、師団正門跡、はず見橋
- ④バス乗車。外濠を一周して帰路へ

以上



主要引用資料= 高田市史、上越文化財調査報告書「高田城」、高田城本丸御殿取図